

2nd Circular

2023年9月10日

\*\*\*\*\*

日本科学者会議 東京支部



# 第22回 東京科学シンポジウム

2023.12.09 ~ 12.10

## テーマ：理性と希望の平和な時代を拓く

—国際的な軍事緊張の高まりに抗して—

開催日時：2023年12月9日（土）～12月10日（日）

会場：拓殖大学文京キャンパス（茗荷谷）

主催：日本科学者会議東京支部

\*\*\*\*\*

## 第22回東京科学シンポジウム 2nd サーキュラー発行にあたって

実行委員会事務局長 佐久間英俊

7月10日付で発行した1st サーキュラーで、私たち実行委員会は今回の東京科学シンポジウムのメインテーマを「理性と希望の平和な時代を拓く—国際的な軍事緊張の高まりに抗して—」とし、12月初めに都内の会場で開催することを決めて、分科会の開設を呼びかけました。

その後の2か月間を振り返ると、敵対国への対抗強化を目指すG7外交、米韓軍事演習による北朝鮮との緊張の高まり、侵略戦争も契機とした物価高騰と実質賃金減少の継続、原発汚染水の海洋放出による騒動、ジャニーズ事務所の性虐待に対する国連からの指弾、マイナカード発行をめぐる大混乱の継続、記録的な猛暑などがありました。こうした情勢は、今回のシンポジウムのテーマが世界と日本が直面している時代の要請に合致しており、科学が解明すべき課題が山積していることを示していると考えます。

さて、1st サーキュラーの分科会設置の呼びかけに応じて15件の応募があり、開設がなされました。また特別報告では、非正規雇用者の闘いと、人権とジェンダーという2つのテーマを選び、最適な講師に依頼して準備を進めています。

前回（2021年）のシンポはコロナ禍のため、やむなくオンライン開催となりました。自宅等から気軽に参加でき、費用もかからないなどの利点はありましたが、企画後の交流不足やITトラブルなどの問題が起きました。今回はポスターセッションや展示コーナー、懇親会の復活は勿論、演奏者を招いたチェロ・コンサート、事前企画の囲碁大会なども予定します。ご期待ください。

この2ndサーキュラーでは、主に分科会の発表者を募集します。多くの会員が臆することなく分科会発表に応募され、問題意識や日頃の研究の成果、問題解決に向けた運動の取り組みなどを披露いただきますようお願いします。なお私たちは、このシンポジウムを市民とともに成功させたいと考えています。非会員の参加も歓迎しますので、周りの市民も誘ってご参加ください。

## 1. 特別報告 12月9日(土)午後

### 1. 原田仁希さん(首都圏青年ユニオン委員長)

#### 「非正規労働運動の可能性と展望」

### 2. 田中優子さん(法政大学・前総長)

#### 「人権とジェンダー・その歴史的視点」



## 2. 分科会 12月9日(土)午前、10日(日)午前、午後

### 【1】分科会名：「安全保障三文書」と日本国憲法の相克——日本国憲法の廃棄を阻止する憲法論と運動論を語ろう

- ・設置責任者：金子勝（立正大学分会）、中野貞彦（武蔵野通研分会）
- ・連絡先：s.nakano(at)d012.dant2.jp（中野） ※メールを送る際は(at)を@に代えてください
- ・設置趣旨：岸田文雄内閣は、二〇二二年一二月一六日に、先制侵略攻撃を可能とする「反撃能力」の保有と実行を表明する違憲の「安全保障三文書」を閣議決定（改憲手続きを無視する「憲法クーデター」）して、日本国の「侵略戦争宣言」を発した。国家が、「反撃能力」を発動して侵略戦争を始めようとするれば、“平和の団塊”である日本国憲法に基づいて反対する国民・団体・政党の強い抵抗を受けることになるであろうため、岸田内閣や自由民主党等は、今後、日本国憲法の抹殺に全力を尽すと想定できる。そこで、日本国憲法の廃棄を阻止するための憲法論と運動論を、みなさんと語り合いたいと考えている。

### 【2】リニア中央新幹線問題の検討と運動・経験交流(part7)

- ・設置責任者：長田好弘（武蔵野通研分会）、松永光司（武蔵野通研分会）、橋本良仁（高尾分会）
- ・連絡先：matsunaga\_mitsushi(at)hotmail.com（松永） ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・**設置趣旨**：日本科学者会議は「リニア中央新幹線計画の撤回・中止」の態度を「声明」をもって鮮明にし、本件にかかわる学術的諸問題の解明と地域住民の諸要求実現運動との連帯を強めて来た。それらの成果は各種シンポジウムや『日本の科学者』誌上で明らかである。東京地裁は7月18日、「国交相の判断に裁量権の逸脱や乱用はない」「国交相の判断が…社会通念に照らし、著しく妥当性を欠くことが明らかとまではいえない」として、リニア認可取り消し請求を棄却した。このような判決理由では、どんなに事実を積み重ね、科学を根拠とした主張も受け入れられない。行きつくところは独断政治、ファシズムである。原告は控訴を決めている。残土、地下水、住宅地陥没…暮らしの不安はあとを絶たない。国民の良識とは異次元の判決を許さない世論の喚起が重要となっている。

### 【3】科学技術の現状批判—日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part15—

・**設置責任者**：久志本俊弘（大阪支部）、矢作英夫（武蔵野通研分会）、長田好弘（武蔵野通研分会）

・**連絡先**：to4ksmt(at)yahoo.co.jp（久志本） ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・**設置趣旨**：政府はロシアのウクライナ侵攻を口実に「大軍拡予算化」「秘密特許制度化」「産業の軍備体制化」を強行している。

・第9波コロナ禍の政府対応は、これまで以上に科学・技術の知見を無視する態度で多くの国民を路頭に迷わしている。

・マイナカードなど「デジタル化社会」の強制はいよいよ人権無視、監視社会、ファシズム化への様相をつよめている。

・官民で150兆円投資予定の「GX実現に向けた基本方針」は、宣伝とは裏腹の原発回帰、石炭固執であり、GX実現の「革新技術」も不確実性が指摘されている。

・生成AIの進展と各方面の企業活動・生活の場への実装は多くの問題を提起し、その本質的な議論が求められている。

・上記いずれも国民的議論が喫緊の課題となっており、「科学・技術の現状批判」は広範な国民各層との共有が重要であり、JSAの情報発信の在り方の論議も必要である。

### 【4】科学・技術サロン—日本の科学・技術の現状とロマンを語る part16—

・**設置責任者**：長田好弘（武蔵野通研分会）、松永光司（武蔵野通研分会）

・**連絡先**：matsunaga\_mitsushi(at)hotmail.com（松永） ※メールを送る際は(at)を@に代えて下さい

・**設置趣旨**：政府・与党はロシアのウクライナ侵攻、朝鮮・台湾有事などを口実に、防衛産業強化法を制定し、米軍主導のもとで敵基地攻撃能力の強化、「殺傷兵器」全面輸出をすすめている。

政府与党は、多大な欠陥を露わにしたマイナカードを、デジタル化社会構築のテコにするため導入強行を図っている。行きつく先は管理・監視社会であり、軍国主義国家化である。

「軍事研究は行わない」を創立の基本精神とする日本学術会議への攻撃が一段と強まる情勢に

ある。広範な国民とともにこの攻撃を許さないためにも、学会会議提唱の「研究インテグリティ」の議論を深め発展させる。

学術・生産・生活の広範な分野で私たちは、近年急速な発展をとげる生成 AI 技術と深く関わることになる。負の面を克服しつつ社会進歩に役立つ積極的な利活用を心がける広範な議論をリスペクトをもって進める。

## 【5】2035 年を見据えた気候変動対策の課題と市民社会の役割

- ・設置責任者：佐川清隆（東京大学分会）
- ・連絡先：Kinotosakura0401@hotmail.com ※メールを送る際は(at)を@に代えて下さい
- ・設置趣旨：世界的な猛暑や山火事などで気候への危機が高まっている。国際的には、2024 年の気候変動 COP29 に向けて、2035 年目標を出す必要がある。国内では第7次エネルギー基本計画の議論がそれとリンクする。2022 年の G7 サミットでは、日本政府も 2035 年までの電力の完全または太宗の脱炭素化に合意した。そうした中で、電力・エネルギーシステムをどう転換するか、その際に市民運動や地域社会が主導的な役割を果たせるかが問われている。この分科会は公害・地球環境問題懇談会と共催で、2035 年に向けた電力・エネルギーの議論の中で、市民社会がかかげるべき目標や、果たすべき役割を広く議論する。



## 【6】自然科学の進展を俯瞰するⅢ

- ・設置責任者：青木和光（国立天文台分会）
- ・連絡先：aoki.wako(at)gmail.com ※メールを送る際は(at)を@に代えてください
- ・設置趣旨：自然科学の各分野における著しい進展を、専門の異なる研究者が集まる日本科学者会議の特色を活かして俯瞰することを目指す分科会を開催します。各分野での進展を研究者個人の視点でみつめなおし、それを交流することで自然科学の潮流をつかむことを目標にします。分科会では、3 人程度からそれぞれの分野での顕著な進展とその特徴や背景を報告してもらい、参加者にも各分野の状況を発言いただく時間をとる予定です。今回は特に、日本科学者会議の設立目的である科学の普及について、考え方や取り組みがどのように進展してきたのか、考えてみたいと思います。この面での報告・発表を歓迎します。

## 【7】文学は核兵器の惨禍と脅威をどのように描いてきたか

- ・設置責任者：風見梢太郎（武蔵野通研分会）
- ・連絡先：kazami(at)big.or.jp ※メールを送る際は(at)を@に代えてください
- ・設置趣旨：ロシアのウクライナへの侵攻によって、あらためて私たちは核兵器の惨禍と脅威について真剣に考えなくてはならない事態に立ちいたった。過去の文学が被曝の惨禍と核兵器の脅威をいかに描いてきたかをテーマにした分科会を設置し、多くの人たちとこの問題について討論

したい。また、ロシア、ウクライナなどの文学者が今の戦争をどのように捉え平和のためにどのような活動をしているかについても情報を共有したい。分科会はこれまでと同様自由に意見交換できる交流会形式としたい。

## 【8】人文学から学問と社会の関係を再考する——民主主義、原発、フェミニズム

- ・設置責任者：浅野雄大（東大院生分会）
- ・連絡先：samurai857(at)gmail.com ※メールを送る際は(at)を@に代えてください
- ・設置趣旨：日本科学者会議では設立以来、研究者と社会の有効な結び付きが目指されてきた。しかし学問にはポストモダンの反基礎付け主義を経て、その社会での正当性に疑問符が付けられた歴史がある。実際、近年では日本学術会議の不任命問題が話題になったこともあり、その問題は日本でも顕在化している。このシンポジウムでは、人文学を専門とする若手研究者が異なる視点から学問と社会の関わりを分析し、これから研究者は社会とどう関わっていくべきかを模索する。

## 【9】院生・若手企画「冬の学校」——海外留学に行こう！

- ・設置責任者：森山洸（東大院生分会）
- ・連絡先：hikaru.yamayama(at)gmail.com ※メールを送る際は(at)を@に代えてください
- ・設置趣旨：昨今、研究者のグローバルな活躍が期待されていますが、どうしたらいいのかわからない人がいると思います。また、お金や時間の面で最初から諦めている、関心がないという人もいると思います。しかし、様々なサポートがあることが分かれば、意外にも簡単に行けることが分かるかもしれません。この分科会は、海外留学経験のある方に利用した制度や準備などを詳しく伺い、海外留学に関心のある皆さんに役立ててもらえるものです。



## 【10】教育の市場化と公教育

- ・設置責任者：山本由美（和光大学分会）・大友育子（都立公立小学校教員）
- ・連絡先：tu-ootomo(at)educas.jp（大友） ※メールを送る際は(at)を@に代えてください
- ・設置趣旨：都がすすめる効率優先の教育は、非正規教員を増やし、プールや部活動の外部委託等民間企業の参入をすすめてきました。高校入試の一部を企業に外部委託するE S A T—Jを実施し多額の予算をかける一方、正規教職員を増やしていません。学校統廃合により大規模校化した学校では、教職員の長時間過密労働はより深刻です。教職員の欠員によって特別支援教育に対するしわ寄せも発生しこのままでは公教育が立ち行かなくなります。

## 【11】大学・高等教育の現状認識を共有し明日を考える

- ・設置責任者：多羅尾光徳（東京農工大学分会）
- ・連絡先：tarao@cc.tuat.ac.jp ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・**設置趣旨**：研究費の過度な「選択と集中」、世界でトップクラスの高い授業料、そのいっぽうで貧弱な学生支援制度、若手研究者・非常勤講師の使い捨て、軍事研究への甘い誘い、「ガバナンス」の機能不全と腐敗した経営陣が引き起こす不祥事。大学の貧困化と疲弊は、この国の高等教育がもたらした当然の帰結である。権利としての教育を取り戻し、大学を公正で持続可能な社会の構築に資するコミュニティとして再構築するために、国立・公立・私立という設置形態や、学生・院生・教員・職員という立場の違いを超えて、大学に関わる全ての人たちが考え、議論を交わせる場としたい。

## 【12】非正規教職員の労働運動のこれからを展望して Part2

- ・**設置責任者**：衣川清子（個人会員）
- ・**連絡先**：kinu\_k716(at)yahoo.co.jp ※メールを送る際は(at)を@に代えてください
- ・**設置趣旨**：雇用の安定をめざして2013年4月から施行された改正労働契約法とそれ以降の推移は、非正規教職員の労働運動を前に進めると同時にいくつかの問題も提起した。多くの労働者が無期契約に転換できた一方で、無期転換を嫌う企業による更新上限付与、「委託」「請負」としての労働者性の否定、恣意的な就業規則改定による労働条件引き下げ、均衡・均等待遇の否定の動きが見られる。こうした逆風にどう立ち向かっているか、たたかひの現状と展望を現場から報告してもらおう。

## 【13】AIとジョブ型雇用

- ・**設置責任者**：黒田兼一（明治大学分会）
- ・**連絡先**：kuroken(at)meiji.ac.jp ※メールを送る際は(at)を@に代えてください
- ・**設置趣旨**：このところチャットGPTなど、AIの発達と普及が著しいが、それによって仕事がなくなるのではないかとの不安も聞かれるようになった。また、政府の新しい資本主義実現会議では、リスキリング、エンプロイアビリティ、エンゲージメント、そして「ジョブ型雇用（職務給）」という言葉が飛び交っている。本分科会では、これらDX時代の雇用と労働の有り様をめぐる問題について、その正確な理解に立って「人間らしい働き方・働かせ方」を模索する。



## 【14】日本経済の混迷をどう打開するか

- ・**設置責任者**：佐久間英俊（中央大学分会）、村上研一（中央大学分会）
- ・**連絡先**：sakuma(at)tamacc.chuo-u.ac.jp ※メールを送る際は(at)を@に代えてください
- ・**設置趣旨**：日本経済が長期低迷に入って久しいが回復の兆しはいまだ見えない。多くの企業が国際競争力を落とし、労働者は実質賃金が低下し、急速な少子化で将来市場にも抑制がかかる。財政赤字も膨らむ一方で、社会保障を切り捨てられた市民は競争疲れで閉塞感をぬぐえない。

かつては代表的産業で世界一位の座にあり、巨額の貿易黒字を羨まれた日本経済が、なぜ混迷するに至ったのかを押さえた上で、混迷から脱するにはどのような政策が必要か、参加者とともに考えたい。

### 【15】「ポスト冷戦後」の国際政治経済

- ・設置責任者：森原康仁（個人会員）
- ・連絡先：ya.morihara(at)gmail.com ※メールを送る際は(at)を@に代えてください
- ・設置趣旨：東西を分断していた冷戦の壁が崩壊した「冷戦後」では、一方では自由と民主主義の普遍性が証明されたという側面があるが、他方では政治の役割が後景に退き、ネオリベラルな経済的自由主義が跋扈した。そこでは主権国家の経済的関与は政治的正当性を失い、巨大企業とマネーの支配する世界が現れた。しかし、2020年代に入ると、米中摩擦、WTO紛争解決システムの機能不全、ウクライナ戦争といった「地政学的緊張」があらわれてきた。主要国は経済的関与を再強化し、経済を武器化し、軍事費を拡大させている。この真逆ともみえる事態の急転換をどのように理解すればよいか。本分科会では経済、政治、社会、文化といった多角的な視野から、分科会参加者とともに、2020年代の国際政治経済を展望する。

※以上15の分科会ですが、今後さらに追加する可能性もあります。JSA東京支部のホームページで確認ください。

## 3. 分科会の発表者募集 10月15日までに設置責任者へ申込み

### 分科会への発表申込み：

設置責任者宛てに原則として電子メールで申し込み下さい。申込用紙は次ページにありますが、日本科学者会議東京支部ホームページ (<http://jsa-tokyo.jp/>) からダウンロードできます。

**申込先：**各分科会の設置責任者（上記「2. 分科会」にある設置責任者の「連絡先」欄を参照）

**発表申込みの締切日：**10月15日（日曜日）＜厳守＞

## 4. 発表者の予稿提出 11月5日（日曜日）＜厳守＞

**形式：**A4判2ページ以内で、テンプレートで形式を統一します。（原則としてWord使用）統一形式のテンプレートは、日本科学者会議東京支部のホームページにあります。

**送付先：**22nd-kagaku(at)jsa-tokyo.jp

※予稿ファイルをメールに添付ください。

**予稿の提出締切日：**11月5日（日曜日）＜厳守＞

※締切日を超えた場合、予稿の当該箇所は空白となりますので、十分にご注意ください。

## 5. 予稿集を冊子で発行

予稿集は電子媒体で発行しますが、別途紙媒体（冊子）が必要な場合は、実費&送料で頒価は1000円）となります。10月末日までに実行委員会までお申し込みください。

## 6. 開催日程と主な企画

	午前 10:00～12:15	午後Ⅰ 13:15～15:30	午後Ⅱ 15:45～17:45	午後 18:00～20:30
12月9日（土）	分科会1	開会式 特別報告Ⅰ 特別報告Ⅱ（～17:30）		音楽コンサート 懇親会
12月10日（日）	分科会2	分科会3	分科会4	

注）上記は今回のシンポジウムの主な企画概要です。閉会式や新たな企画が加わるなど細部は若干変更になる可能性があります。

## 7. ポスターセッション、展示を募集します

### 1) ポスターセッション

○統括設置責任者：日本科学者会議東京支部

○設置趣旨：東京支部の分会、個人会員、若手・大学院生、女性研究者などの活動概要を広く会内外に紹介する。また関東甲信越地区にも呼びかけ、可能な範囲で活動の促進と親睦をはかる。

### 2) 展示コーナー

コロナ禍前の第20回シンポジウム（2019年）では、日中友好、日本キューバ友好、日本と朝鮮半島の友好、憲法9条を守る取り組みなどの展示と、キューバ音楽の演奏、市民製作映画の上映などを行いました。今回も同様の取り組みを予定しています。

## 8. 事前企画：囲碁大会（11月）

今回も「東京科学シンポジウム記念囲碁大会」を開催する予定です。

プロ棋士による指導碁も実施する予定です。

日時：11月中旬予定

会場：都内会場予定

連絡先：myahagi(at)viola.ocn.ne.jp（矢作英夫） ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

参加費：指導碁は別料金

## 9. 特別企画：音楽コンサート

今回の東京科学シンポジウムでは初日（12/9 土）夕方に「平和を拓く愛とヒューマンのチェロ・コンサート」と題して、チェロの演奏会を実施します。音楽会の参加費用は懇親会費に含まれます。

演奏者の江原望さんは日本フィルハーモニーオーケストラの首席チェロリストで、演奏のYOUTUBE「ウクライナに思いを馳せる 鎮魂と平和を祈るつどい」など様々な活動をされています。

1) 参加希望者は、**事前に実行委員会ホームページで参加登録**を行ってください。

申し込み締め切りは11月15日です。

2) 懇親会費はJSA東京支部ホームページにあるシンポジウム専用コーナーの参加登録画面から振り込んでください。

## 10. シンポ参加費は2000円、募金にご協力を

1) 参加費

	シンポジウム参加費	懇親会費
一般	2000円	3000円
院生・学生	1000円	1500円

※初日夜の音楽コンサート参加費は懇親会費に含まれます。

## 2) 募金

シンポジウムには特別報告講師謝礼、印刷費、宣伝費、アルバイト料などの費用がかかります。シンポジウム成功のため1口1000円の募金にご協力ください（何口でも結構です）。

振込はJSA東京支部ホームページにある東京科学シンポジウムの専用コーナーより。

## 今後のスケジュール

- 9月10日 2nd Circular 発行  
(開設する分科会を公表。分科会発表者を募集)
- 10月初め 参加登録受付開始  
(懇親会の申込み締切は11月30日(木)24時)
- 10月15日 分科会発表者の応募締切
- 10月31日 予稿集(冊子)の申込み締切
- 11月5日 分科会発表者の予稿提出締切(期日厳守)
- 11月10日 3rd Circular 発行  
(最終プログラムを公表。参加者を募集)
- 11月末日 懇親会参加登録締切
- 12月初め 予稿集発行
- 12月9日~10日 第22回東京科学シンポジウム

※東京科学シンポジウムは東京支部の今年最大の企画であり、会員が日頃の研究成果を発表する場でもあります。初めての方も歓迎します。会員の皆さん、どしどし分科会に発表を申し込みください。

## 第22回東京科学シンポジウム 分科会発表申込み用紙

2023年\_\_月\_\_日 (受付月日: \_\_月\_\_日 受付番号: \_\_\_\_\_)

(ふりがな) 名 前	
住 所	〒
連 絡 先	e-mail : Tel :
希望分科会	
タイトル	
発 表 者 名 (所属 or 肩書き)	

### 概要(200字~400字)

分科会発表の申し込みは設置責任者宛てに原則として電子メールで申し込みください。(メールアドレスは上記「2. 分科会」の当該分科会欄をご覧ください)

上記申込用紙は、日本科学者会議東京支部ホームページ (<http://jsa-tokyo.jp/>) の東京科学シンポジウム専用コーナーからダウンロードもできます。電子メールが不都合な場合は、実行委員会宛てに、申込用紙に必要事項を記載の上、FAX (または郵送) で送ってください。



日本科学者会議 東京支部

# 第22回 東京科学シンポジウム

2023.12.09 ~ 12.10

私たち実行委員会は、市民とともに  
シンポジウムを成功させたいと考えています。  
また、皆さんにご満足いただけるよう  
企画準備に努力しています。  
多くの皆さんのご来場をお待ちしています。

## 第22回東京科学シンポジウム実行委員会

青木和光（支部常任幹事）、浅野雄大（支部常任幹事）、衣川清子（支部常任幹事）、佐川清隆（支部幹事）、○佐久間英俊（支部事務局長）、佐藤和宏（支部幹事）、多羅尾光徳（支部幹事）、中島明子（支部代表幹事）、森原康仁（支部常任幹事）、森山洸（支部常任幹事）、山村延郎（支部幹事）、吉村さくら（支部幹事）、◎米田貢（支部代表幹事）

◎：実行委員長、○：実行委員会事務局長 2023年8月末日時点

---

日本科学者会議東京支部 第22回東京科学シンポジウム実行委員会

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 茶州ビル 9階

Tel/Fax : 03-3811-8281

e-mail : 22nd-kagaku(at)jsa-tokyo.jp

※メールを送る際は(at)を@に代えてください

---